

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

31号

平成 26 年 11 月 6 日 第 31 号

政依存のまちづくりを止め、自らの力でまちを活性化しようとする意気込みを見せてほしいものです。

1 新庁舎建設は本当に民意ですか

通信を配る際、ある商店主の話聞く機会がありました。それによると、二階堂市長の選挙応援の方がその店を訪れ、市長選への投票依頼をされたそうです。どう言う訳か、突然に、「新庁舎を地域交流センターに建設する事になったのは、アンケートの結果であり民意である」と力説されたそうです。新庁舎建設が実際に始まり、多くの市民から、「何故こんな狭い場所に建設するのか」と言う声が聞こえています。市長選を前にして、市民の批判を必死に打ち消そうとされているのでしょうか。

アンケートの手法は、1世帯1枚、用紙を広報に挟み込むという方法で、その内容は、誘導的と言えるものであり、回収率は約17%、民意を問うにはあまりにもお粗末なものでした。アンケートの中の総事業費比較では、現庁舎・図書館敷地が61億円程度、地域交流センターが57億円程度、中央高校グランド跡地が60億円程度とありました。資材や人件費が高騰した事も原因ですが、狭い場所にコストのかかるL字型構造で、地下1階地上7階建ての新庁舎建設費用は約72億円に跳ね上がり、今後も増える可能性があります。新庁舎建設場所が、アンケートでは、4億円程度の差で決定したともいえます。駅前複合施設建設の予算組み立てが甘かった事を考えると、このアンケートにおける予算組み立ても信用できず、地域交流センターに有利なものになっていたのではないかと疑いたくなります。このアンケート結果は民意と言えないと思います。

これまで私達は、地域交流センターに新庁舎を建設することは民意ではないとして、二階堂市政に疑問をもち運動してきましたが、今度の市長選挙は、民意であるか否かが改めて問われます。新潟市の選挙のように盛り上がりが出て欲しいと思うのですが、新発田市には風が吹きません。皆様これで良いのでしょうか。

これまで私達は、地域交流センターに新庁舎を建設することは民意ではないとして、二階堂市政に疑問をもち運動してきましたが、今度の市長選挙は、民意であるか否かが改めて問われます。新潟市の選挙のように盛り上がりが出て欲しいと思うのですが、新発田市には風が吹きません。皆様これで良いのでしょうか。

2 行政依存症から脱却しましょう

国から市町村へ、地方創生のための案を提出するように言っているそうです。補助金が出される為の具体的な条件はよくわかりませんが、聞くところによると、形に残るものにはお金は出さないというのだそうです。ある商店主が、歩道に置かれている椅子が古くなり何とかして欲しいと言われたのですが、それは形に残る物なのでお金は出せない事になっていると言われたそうです。

その店主の方に提案しました。「行政に依存しないで、商店街の皆さんで、廃材を利用し椅子を作られてはどうですか。商店街の皆さんには多くのノウハウがあるはず。そのほうが多くの市民の反響を呼び、まちの活性化に繋がるのではないですか」と。お金を使わず、智慧を出し、汗を流せば、そこに人と人との交流が生まれると思います。実り多い活性化策だと思いますが、如何でしょうか。

村上市のまちづくりは、行政依存ではありません。市民が立ち上がったのです。新発田市中心市街地商店街の皆様にも、そろそろ行

3 いきいき館が今の場所になくになったら

国が行政機関の古くなったビルの解体に補助金を出すという事になり、アンケート調査（解体の是非を問うという調査ではありませんでした）が実施されました。その結果だと思いますが、いきいき館が壊されると聞いています。心配な事は、この建物内で障害を持つ方達を中心になって営業しているカフェ利用者が減り、収益が減るのではないかとこの事。場所が変われば、これまでこのカフェを利用していた人達も利用できなくなり、人の流れが変わります。新たな場所に移転したとしても、これまで同様の固定客ができるまでには時間がかかります。

現庁舎移転後の跡地は公用車駐車場を含めた一般駐車場になる予定との事ですが、このいきいき館跡地の利用法について、市民と共に考える機会はあるのでしょうか。市民と共に再利用方法を模索することなく、古くなったからといって簡単に壊してしまうようなまちづくりで良いのでしょうか。まちを毎日のように歩いている私には、巨費を使い、歴史を顧みず、短期間でまちを造りかえる二階堂市政についていけません。補助金目当ての行政主導のアンケート調査によって、早急に結論を出すような市民不在のまちづくりでは新発田市の未来の姿がみえません。

4 新庁舎を考える会が予測していた事

昨年の6月に、新庁舎を考える会がチラシを作り配りました。そのチラシの中で、新庁舎を地域交流センターに建設する事の問題点を7つ挙げていました。それらは、「①渋滞緩和は困難です、②災害時の防災拠点にはなりません、③新庁舎は機能不足、イベント会場です、④建設コストが増大します、⑤駐車場化が進行します、⑥交通事故の危険性が増します、⑦庁舎依存では活性化は困難です」というものです。この7つの項目の中で、確実に予測が的中したのは、建設コストが増大した事（72億円以上の税金が使われる予定です）、そして中心市街地の駐車場化が進み、空洞化が進んでいる事、さらに庁舎依存だけでは活性化が困難な事です（今では駅前複合施設建設にまで至りました）。

中心市街地の渋滞については、荒町バイパスが開通した事により、今のところ、ある程度の渋滞緩和はできていると思います。しかし、新庁舎が商店街中心に移転してきた場合、駅前複合施設ができた場合、そして冬期には渋滞は増すと予測します。また、中心市街地の狭い場所に建設される新庁舎が、災害時に住民の命を守る為の情報発信の場として機能するのか疑問です。

新庁舎建設が始まりました。駅前複合施設建設もまもなく始まります。これらの箱物に約110億円の税金が使われます。今後の財政負担を考えると、市民の暮らしは、今以上に苦しくなると思います。